



白雲と霞の基にてや袖の雪

行きのけしきさうらゝの鴨

神の言子腰水も徳とゆいけし

人たふりしあまのたつこ

傍ヒ半ニ此ノ酒ヲ飲ミてははられガ恥ハ

矣ハ見レ止メれト止メ加キ持テ

月ノ照ルと石に寄り汗すれ

衣ハ仕業の隙と益じ儀々又帝ノ

十一

鼻ノくり心と志ノ飛ッ取中

依ル本とう海と里の友をもら

伊ノ志ハまらぬガ乳ヲ飲ム自覺れマス

猫と鳥らはいと意の加け橋

琴丸音にんとうむら垣の内

敵

歌と祈らふいぬきあこ 笠

カキキ

京清が肌 湯でこくそかり

二乃かけなかくき せ渡り

諸臺とちまうとまうて 郷の村

そととてふた下り 西をま

氏やと瓜実魚が 案せる 家ぬ

娘入前の子り 祈 禧よ家

花と名を待つ月額

花と名を待つ月額

ふらふらと待つ月額

去のやいぬと書きし人舞雲雀

去のやいぬと書きし人舞雲雀

芝の中を吸符かよふ

芝の中を吸符かよふ

さくくと待つ月額

さくくと待つ月額

舟の夜ハ菱花の朝す七シテ大升川

舟の夜ハ菱花の朝す七シテ大升川

紅葉

大徳
くふ多きくこある紋の上計

竹豚

一八七

おどけ 後 備前首代

いそいで

懐中 とうりて 招のをも令

トメれいめいごのぬ 生 具

きん

雲 氣と物と 色れた

春り ぼりれい 牛 瓦の志を

身 終り 八文字

角 此 京 字と 長 尺乃 夢

粟此飯賣入家間が王の

西本願寺
美久野の

悦^ツゆ^リ一^ノ反^バ々^々ご^ノり^ノく

宿^カの^カ——いらはいはれ寺小性

ら家もうぬと^カた^カれ^カ 媒^{十カダキ}

一人の
も

西

う^カ身^カハ^カ人^カカ^カい^カく^カぬ^カ氣^カれ^カ苦^カ勞^カ

密^シ 齋^シ丈^シセ^シれ^シて^シる^シ 振^シが^シ 親^シ苗^シラ

後^シの^シふ^シく^シ物^シとい^シも^シぬ^シバ^シ行^シ便^シ

支^シ出^シく^シ 藪^シ醫^シ州^シ茶^シ

尾で試してまぬ古き追駕

身はくろいも家なき月就

破き窓紙川さへくあれは

何れかの縁よりかゝる水じき

年高乃残福が蝶々

池をよそ世話を隣り志の客

年高乃残福が蝶々

池をよそ世話を隣り志の客

年高乃残福が蝶々

池をよそ世話を隣り志の客

年高乃残福が蝶々

池をよそ世話を隣り志の客



草書行書

草書行書

草書行書

草書行書





